

ご案内『徳次郎石研究会』

「産（民）学官連携（的）研究活動」へ
皆様の参加をご招待します！



地域の誇り 日本遺産の大谷石等の石文化に付加価値を！



この町を行くと、大谷石の塀・石倉を多く見かけます。なぜか、『ほっと』した気持ちになります。長年親しんだものが、心のどこか

by:tomoki

by: tomoki にあるのかも知れません。私たちが
立っている地面の下5～10m位下に、石の層に行
きつくようです。それは、大谷石か準じた石ででき
ています。地面からの風土が、住む人の心と体の人
間性を作っているのかも知れません。地域の自然の
風土には、故郷の温くもりがあり、人々の〈アイデン
ティティー〉になっていると思われます。

徳次郎石研究会の成立は、この地だからこそ、発展と未来につなぐ使命がある

元号が令和に変わった年に、徳次郎石研究会を創設。何か新しい時代の到来に息吹が感じられる時でした。民



と共にあったこの地域の石文化が、時空のもと草木の中に埋没していくことに不足が感じられました。

そこに、地域を担う郷土史家と自然科学者の方々の賛同で沸き起こったのが活動です。日本的な視野からすると、『日本遺産大谷石』に不足を感じたから、必然といえるかも知れません。

活動の内容についてですが、当初、宇都宮市富屋地区の西部の山中の石産地から産出された白い色の凝灰岩を対象としました。自然に、栃木県全体(野州石造文化圏と呼ぶ)に広がりました。いずれは、日本は全国の多くの石産地に及びかもしれません。

研究手法は、一口にいえば Science & Culture

を合言葉に、産（民）学官連携（的）事業として調査・研究を行ってきました。

その成果は、毎年『年度徳次郎石研究会活動成果報告書』として発刊し、この内容は研究者によって、栃木県立博物館友の会により連続講演を翌年実施します。これまでは、地層・岩石の火山な

どころのでき方、その性質を利用した民の文化の基礎研究が主にでした。これから、成果の応用させるかに主眼が置かれています。徳次郎石で言えば、



里本の民は、当初の宗教的オブジェから建築様式にと発展を遂げた、市井の民の創造した石文化の凄さがあります。

『古きをたずねて新しきをいふ』今風に言えば『里山資本主義』に似た形態がここにあったことに歴史の必然を感じます。

過去の石文化に、これからの地域発展のヒントが
隠されているとも、思えるのも研究成果でしょうか。

研究の成果は、みんなでまちづくりに！

過去6年間の地域の基礎研究を経て、その成果を町づくりに役立てるべき4つのテーマ

- ① 野州の石屋根の現存数の調査 ②徳次郎石文研究の成果は化の美 ③野州石材辞典の作成④国道293号線に採石遺構を中心に地域おこし
特にこのテーマを、みんなでまちづくり化する研究で、観光資源などへの活用を目指す段階です。

日本の軟石の分布と「石の町」
2020 小林・安森





ロストワールド(採石の遺構)が野州の草木の中に眠る⇒

ご案内『徳次郎石研究会』

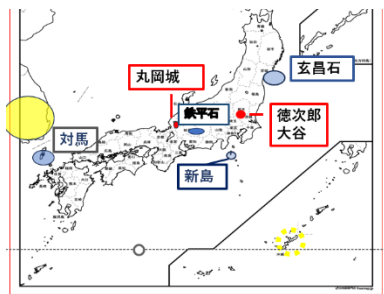
地球の地域への贈り物、凝灰岩の研究を
『みんなでまちづくり』しましょう！



忘れてはいけない、野州の石屋根

昭和11年の『工芸』で、民芸の創始者、柳宗義は野州の石屋根について、『私はことのほかこの地方の民家で用いた石屋根が美しく思える』と述べている。にもかかわらずその後、野州の石屋根については、調査や研究された事はなく、今や貴重な地域文化の終焉を迎えようようとしています。ここに掲げた筆者の石屋根のわずかな分布図から、この限りににおいても最大の分布したのは、当徳次郎・大谷付近といえます。

日本の石屋根イメージ図中川



本会では、一つの使命として、野州の石屋根の現存実態の調査を、文化の終焉を迎え、最後のチャンスとばかり開始しました。



対馬の石屋根



野州の石屋根



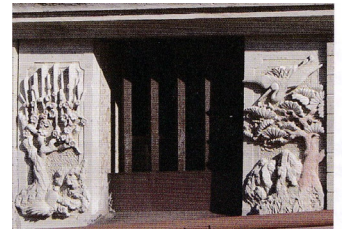
今、野州の石屋根は市中のものは、見受けられず、富屋・篠井の山間部にわずかにあります。

戦前には、富裕者のお宅には、このような石屋根の長屋門が多々あったと思われます。

日本民芸館西館(旧柳邸)

この写真は、日光街道野沢郵便局辺りにあったものを、昭和9年に東京駒場日本民芸館西館(旧柳邸)として移築されたものです。野州の石屋根の民芸的価値の象徴として、都指定有形文化財です。

とくじら 徳次郎石の創造した美の世界の保存



『無名は有名に勝る』市井の民の芸術家の作品を保存して、(仮称)野州石造文化博物館に生活文化の石造物とともに保存し、西根周辺を観光活用を地域として考えていきたいものです。(写真：池田)

野州石材辞典の刊行と毎年の成果報告書

当会では、自然科学者の調査により、県内採石遺構は50箇所はあるとみられます。

これや石材を、一冊の本として発刊活動を行っています。

又、徳次郎石研究会の毎年の研究成果は、1冊の本として出版しており、国県市・宇大図書館(ネット可)で閲覧、県博物館ショップで販売しています。



研究会活動成果『徳次郎石研究会 活動成果報告書』 (2019～2024年度刊行)



活動成果報告会
徳次郎石研究会
活動成果報告書
2024年度(2025.3刊行)

宇都宮大学 学術情報リポジトリ
Utsunomiya University Academic Institutional Repository UUAIR

これらの報告書PDF版は、宇都宮大学付属図書館レポトリでWEB公開されていて、すべての論文がネットで、閲覧・ダウンロードが可能。
(国立国会図書館などでも)

どなたでも、ご参加をお待ちします！
徳次郎石研究会のお問い合わせは

■ お問い合わせ (中川) 08034606569
centralriver1972@wa2.so-net.net